

# 令和7年度 目黒区学童保育クラブの自己チェックシート

施設名： 鷹番学童保育クラブ

## ＜自己チェックの進め方＞

①各施設単位で、運営の内容について確認します。

②各チェック項目について育成支援の記録を見ながら振り返ってください。

③その際、別紙「自己チェックリスト」にある『評価の着眼点』を目安にしてください。また、併せて「放課後児童クラブ運営指針解説書」も参考にしてください。なお、各チェック項目の設問は、運営指針の指針項目に基づいています。

④各チェック項目を振り返った結果は、以下の要領で「結果」欄に記入してください。

例えば「○：できている（評価の着眼点の事項が全てできている）」「△：一部できている（評価の着眼点の事項が一部できている）」「×：できていない（評価の着眼点の事項がほとんどできていない）」といった三段階でドロッダウンリストから選択してください。なお、評価の対象に当てはまらない場合は、「－：該当しない（評価の対象に当てはまらない）」を選択してください。

⑤○、△、×すべての評価について、その結果に至った理由（なお、評価が△、×だった場合は改善に向けた対策案など）をコメント欄に必ず記入してください（100字以内）。職員間で評価結果や気づき、よりよい育成支援の視点等を共有する際に役立ちます。

## I 運営指針 総則、職員の資質向上、事業の対象となる子どもの発達に対応する項目

区 分			チェック項目	結果	コ メ ン ト
1	趣 旨		○「放課後児童クラブ運営指針」の趣旨を理解している。	○	キックオフミーティングや日々の職員ミーティングで放課後児童クラブの運営方針の趣旨を繰り返し確認し、職員間で共通認識を図り理解に努め運営を行っている。
2	放課後児童健全育成事業の役割		○放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の役割を理解している。	○	子どもの安心安全で過ごせる居場所づくりができるように日々の職員ミーティングで振り返りを行っている。
3	放課後児童クラブにおける育成支援の基本	(1)放課後児童クラブにおける育成支援	○放課後児童クラブにおける育成支援の目的を理解している。	○	子どもたちが安心安全に過ごせるように、環境設備と安全面へ配慮し、発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように子どもたちの意見を取り入れながら保育を行っている。
		(2)保護者及び関係機関との連携	○保護者や学校等の関係機関と連携している。	○	保護者とは日々、連絡帳やお迎え時、クラブ便りで子どもの様子や友達との関わりなどを伝えている。また個人面談や親子行事、保護者会では写真の掲示やプロジェクターで子どもの様子を伝えている。
		(3)放課後児童支援員等の役割	○放課後児童支援員及び補助員は、その役割を理解している。	○	放課後児童支援員の資格や資質向上のために積極的に研修を受講するようにしている。また社内研修や入社時現場研修等も行っている。
		(4)放課後児童クラブの社会的責任	○放課後児童クラブの社会的責任を理解している。	○	子どもの人権に配慮し、1人ひとりの人格を尊重しながら支援を行っている。また保護者や関係機関との連携や育成支援に努めている。
4	放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理	(1)社会的責任・職場倫理	○放課後児童クラブは社会的信頼を得て育成支援に取り組み、放課後児童支援員等は仕事を進める上での倫理を自覚し、育成支援の内容の向上に努めている。	○	キックオフミーティング等での行動規範の確認、社内研修や法人内で行っている自己の振り返り等により、倫理を自覚するとともにミーティング等で職員育成支援について話し合い向上に努めている。
		(2)法令遵守のための組織的取組	○放課後児童クラブの運営主体は法令を遵守するとともに、すべての放課後児童支援員等が職場倫理を自覚して職務に当たるよう組織的に取り組んでいる。	○	研修やOJTを通じて育成支援の内容、職場環境、財政・事業運営を含めて法令遵守の必要性に組織的に取組み、職員一人ひとりの資質の向上と育成支援の充実に努めている。
5	要望及び苦情への対応		○子ども及び保護者からの要望や苦情に、迅速に対応する仕組みを整えて対応している。	○	子どもや保護者の要望や苦情に迅速に対応できるように仕組みを整えて対応している。
6	事業内容向上への取り組み	(1)職員集団のあり方	○放課後児童支援員等は、事業内容の向上を目指す職員集団を形成するとともに、事業内容を向上させるように努めている。	○	日々のミーティングや日誌等を活用し情報共有を行い、保育の振り返りを行いながら更なる保育の質の向上に努めている。
		(2)研修等	○放課後児童クラブの運営主体は、放課後児童支援員等の研修機会の確保や参加できる環境を整えている。	○	職場内外の様々な機会を捉えて資質の向上を図るための研修等の機会を充実させ積極的に放課後児童支援員に周知を図り参加を促している。
		(3)運営内容の評価と改善	○放課後児童クラブの運営主体は、子どもや保護者の意見を取り入れて自己評価を行い、その結果を公表し、事業内容の向上に生かしている。	○	令和元年度より運営主体が実施する利用者アンケートに加え自己評価を導入することで事業内容の向上や改善を図ると共に、ウェブサイトでも結果を公表し各学童保育クラブがどのように取組んでいるかを明らかにしている。
7	子どもの発達理解		○放課後児童支援員等は、子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、育成支援を行っている。	○	子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、発達の個人差を踏まえて一人ひとりの心身の状態を把握しながら育成支援に努めている。

## II 運営指針 放課後児童クラブにおける育成支援の内容、学校及び地域との関係に対応する項目

区 分			チェック項目	結果	コ メ ン ト
8	育成支援の内容	(1)育成支援の内容	○育成支援の内容について理解している。	○	子どもが自らクラブに通い続けられるように支援をしどの子にとっても居心地よく、集団としても安定した生活ができるよう日々の生活を組み立てている。
		(2)育成支援の留意点	○育成支援の留意点を理解し、支援を行っている。	○	子どもに寄り添った育成支援を理解し心がけ、年間活動をもとに保育を行っている。地域交流を積極的に行い、イベント時等は事前に近隣挨拶まわりをし理解を得ている。
9	障害のある子どもへの対応	(1)障害のある子どもの受入れの考え方	○障害のある子どもの受入れの考え方を理解し、可能な限り受入れに努めている。	○	運営指針解説書に掲載されている関連法令、条例、通知を理解し、積極的に研修に参加し、学び受け入れに努めている。
		(2)障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点	○障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を理解し、育成支援を行っている。	○	保育園等の参観や保護者、関係機関と連携している。定期的に巡回相談を実施し、課題を共有しより良い支援内容に努めている。また障害児対応部会実践報告会の内容を職員間で共有している。
10	特に配慮を必要とする子どもへの対応	(1)児童虐待への対応	○児童虐待の早期発見の努力義務があることを理解し、保護者の不適切な養育や児童虐待が疑われる場合には、関係機関と連携し、適切に対応している。	○	気になる子どものことについては記録を残しつつ、適宜区へ情報共有と相談しながら学校、こども家庭センター等と連携し対応していく。
		(2)特別の支援を必要とする子どもへの対応	○家庭での養育について特別な支援が必要な子どもには、関係機関と連携して適切に支援を行っている。	○	特別な支援が必要と感じた場合には区や学校や関係機関と連携をとっている。
		(3)特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たっての留意事項	○特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たっては、プライバシーの保護や秘密保持に留意している。	○	保護者や子どものプライバシーの保護、業務上知りえた事柄の秘密保持に努めている。
11	保護者との連携	(1)保護者との連絡	○各種連絡手段を活用して、子どもの出欠席、遊びや生活の様子について保護者と情報を共有している。	○	クラブ便り、連絡帳、個人面談、保護者会、お迎え時に子どもの様子を伝えている。安心でんしゃぽとを利用して、情報共有も行っている。
		(2)保護者からの相談への対応	○保護者と信頼関係を築き、相談に適切に対応している。	○	その都度保護者の気持ちを受け止め、困っていること、悩んでいることを一緒に考え解決できるよう支援している。また何でも相談できるように環境を整えている。
		(3)保護者及び保護者組織との連携	○保護者との協力関係を構築するとともに、保護者組織と連携している。	○	お迎え時に子どもの様子等を伝え、積極的に関わり寄り添うことを意識している。夏祭り、ハロウィン、親子交流会は保護者と連携し開催ができた。

12	育成支援に含まれる職務内容と運営に関わる業務	(1) 育成支援に含まれる職務内容	○ 育成支援に係る職務を実施している。	○	目黒区や法人の各種マニュアル・方針に基づき、年間計画、日案を作成し、見直しをもった活動を行っている。
		(2) 運営に関わる業務	○ 運営に関わる業務を実施している。	○	日々の子どもの様子や職員の職務について記録している。毎日ミーティングで話し合い運営を行っている。
13	学校との連携	(1) 学校との連携	○ 情報交換や情報共有、学校施設の利用等、学校との連携を図っている。	○	学校行事には積極的に参加している。(運動会、学習発表会、PTA、実行委員会、音楽会) 学校の先生と子どもの情報共有を行っている。
		(2) 学校との連携におけるプライバシーの保護	○ 学校との連携にあたって、個人情報や秘密保持について予め取り決めている。	○	年度初めの挨拶の際に個人情報等の取り扱いについて取り決めている。
14	保育所、幼稚園等との連携		○ 情報交換や情報共有等、保育所・幼稚園等との連携を図っている。	○	夏休みに保育園に行き保育体験をさせてもらい、学童の夏祭り、ハロウィンに招待するなどの交流を図っている。
15	地域、関係機関との連携		○ 地域組織や子どもに関わる関係機関等との連携を図っている。	○	学童の夏祭り案内を毎年碑文谷6丁目自治会の回覧板でアナウンスしていただいている。また自治会の夏祭りに参加させていただいている。
16	学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	(1) 学校施設を活用して実施する放課後児童クラブ	○ 学校施設を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	—	
		(2) 児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	○ 児童館を活用して放課後児童クラブを実施する上での留意事項を理解し、適切に対応している。	○	近隣の児童館情報を共有し、卒後後も子どもが児童館を利用できるように努める。

### Ⅲ 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策に対応する項目

区 分			チェック項目	結果	コ メ ン ト
17	衛生管理及び安全対策	(1) 衛生管理	○ 日常の衛生管理を適切に行うとともに、感染症の発生時における対応方針を予め定めている。	○	目黒区や法人の各種マニュアル・方針に基づき、衛生管理を徹底している。
		(2) 事故やケガの防止と対応	○ 事故やケガを防止するための対策を講じるとともに、事故やケガの発生時における対応方針を予め定めている。	○	目黒区や法人の事故対応マニュアルに沿って速やかに保護者に連絡し迅速な対応を行っている。またけがの記録を記録帳に記入し、ファイリングして管理している。併せて改善に向けたミーティングを行っている。
		(3) 防災及び防犯対策	○ 防災や防犯に備えた対策・訓練等を日ごろから行っており、災害等の発生時における対応方針を予め定めている。	○	毎月1回避難訓練を実施している。また防犯講習、救命救急講習など随時職員に必要な講習を受けており、発生時対応マニュアルも整備している。保護者に向けて月1回171訓練の体験利用を実施している。
		(4) 来所及び帰宅時の安全確保	○ 関係者と連携して、来所及び帰宅時の子どもの安全を確保している。	○	子どもが登所しない場合は保護者と連携し子どもの所在確認を行っている。保護者と学校と連携し下校時刻の共有を行っている。

### Ⅳ 運営指針 施設及び設備、衛生管理及び安全対策、放課後児童クラブの運営に対応する項目

区 分			チェック項目	結果	コ メ ン ト
18	施設及び設備	(1) 施設	○ 放課後児童クラブとして求められる機能を備えた施設(専用区画)を有している。	○	子どもが安心安全な環境で過ごせるように室内のレイアウトを適宜工夫し一人ひとりが安全に過ごせるスペースを確保している。
		(2) 設備、備品等	○ 放課後児童クラブとして求められる機能を満たすための設備や備品等を有している。	○	衛生及び安全が確保された設備を備え、子どもの所持品を収納するロッカーや子どもの生活に必要な備品、遊びを豊かにする為の玩具及び図書を揃えている。
19	職員体制	(1) 職員配置	○ 支援の単位ごとに2人以上の放課後児童支援員等を置いている。	○	適切に放課後児童支援員等の職員配置ができています。
		(2) 育成支援の実施	○ 支援の単位ごとに育成支援を行っている。	○	放課後児童支援員等は、支援単位ごとに育成支援を行っている。
		(3) 放課後児童支援員の雇用形態	○ 放課後児童支援員を長期的に安定した形態で雇用している。	○	放課後児童支援員が長期にわたって安心して就業できるよう、処遇改善や労働環境の整備に努めている。
		(4) 勤務時間	○ 放課後児童支援員等の勤務時間を、開所時間の前後に必要な時間を前提として設定している。	○	子どもの受け入れ準備、打合せ、育成支援の日誌作成、清掃、片付け、配布物等の作成、事務処理等を含め開所時間の前後に準備時間を設けるよう努めている。
20	子ども集団の規模(支援の単位)		○ 適切な子ども数等の規模の範囲(おおむね40人以下)で運営している。	△	区としては、現在の入所希望に対応するため、当面の間、1つのクラブにおいて70名を上限とし、それを超える場合は、2クラス等の運営ができるように施設を整備することとしている。
21	開所時間及び開所日		○ 開所時間及び開所日を適切に設定している。	○	開所時間は8:00～19:00とし、開所日は、年間290日程度となっている。
22	利用開始等に関わる留意事項		○ 利用開始や退所に関わる留意事項を理解し、適切に対応している。	○	区として作成した利用案内を窓口、各施設等で配布し、併せて区のウェブサイトでも公開している。また、利用開始にあたっては、各施設ごとに説明会を開催し、入所案内を配布し、利用及び退所時の説明を行っている。
23	運営主体	(1) 運営主体の要件	○ 安定した経営基盤と運営体制を有し、子どもの健全育成や地域の実情についての理解を十分に有する主体が、放課後児童クラブを運営している。	○	放課後児童クラブの運営は、育成支援の継続性という観点から、子どもの福祉について理解し、安定した経営基盤と運営体制を有する主体が安定的・継続的に担っている。また、地域の実情についても理解をしている。
		(2) 運営上の留意事項	○ 放課後児童クラブの運営主体は、設備運営基準に定められた運営上の留意事項を理解し、運営している。	○	放課後児童クラブの運営主体の留意点6項目について理解し運営に努めている。
24	労働環境整備		○ 放課後児童クラブの運営主体は、放課後児童支援員等の労働環境を適切に整備している。	○	法人の就業規則に基づき、適切に勤務時間、休日が定められている。その他定期健康診断の実施、インフルエンザ予防接種助成制度があり、職員の健康管理に努めている。
25	適正な会計管理及び情報公開	(1) 会計管理	○ 放課後児童クラブの運営主体は、適正な会計管理を行っている。	○	放課後児童クラブの公益性に照らし、保育料徴収の手続きや管理及び執行を適正に行い、執行状況報告について監査等を行い適正な会計管理に努めている。
		(2) 情報公開	○ 放課後児童クラブの運営主体は、会計処理や運営状況について情報公開している。	○	事業内容や財務及び収支の状況について情報公開し、保護者や地域社会に対する説明責任に努めている。